

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成20年10月9日(2008.10.9)

【公開番号】特開2002-180903(P2002-180903A)

【公開日】平成14年6月26日(2002.6.26)

【出願番号】特願2001-260797(P2001-260797)

【国際特許分類】

| | | |
|---------|-------|-----------|
| F 0 2 K | 1/04 | (2006.01) |
| F 0 1 D | 25/30 | (2006.01) |
| F 0 2 C | 7/00 | (2006.01) |
| F 0 2 K | 3/06 | (2006.01) |

【F I】

| | | |
|---------|-------|---|
| F 0 2 K | 1/04 | |
| F 0 1 D | 25/30 | D |
| F 0 2 C | 7/00 | B |
| F 0 2 K | 3/06 | |

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月25日(2008.8.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】排気を排出するための排出口28、30と、前記排出口に隣接し円周方向に間隔を置いて配設された複数の短形状翼形部34とを含むことを特徴とするガスターピンエンジン排気ノズル18、22。

【請求項2】前記翼形部34が、空気力学的に流線型であり、また、渦を発散するよう銳角の迎え角を有することを特徴とする請求項1に記載のノズル。

【請求項3】前記翼形部34が、根元部40から先端部42までのスパンをもって延び、前縁44から後縁46までの翼弦をもって延びる対向する正圧側面及び負圧側面36、38をさらに含み、また、前記負圧側面が、前記後縁に沿って前記渦を発散するように形成されていることを特徴とする請求項2に記載のノズル。

【請求項4】前記翼形部スパンが、排気の局部的な境界層の厚みと実質的に等しい大きさにされていることを特徴とする請求項3に記載のノズル。

【請求項5】燃焼排気20を排出するための排出口30と、

前記排出口に隣接して円周方向に間隔を置いて配設された複数の短形状翼形部34と、を備え、

前記翼形部の各々は、対向する正圧側面及び負圧側面36、38を含み、該翼形部の正圧側面及び負圧側面が、根元部40から先端部42までのスパンをもって延び、かつ、前縁44から後縁46までの翼弦をもって延び、前記負圧側面が、前記後縁に沿って渦を発散させるような形状であることを特徴とするコアエンジン排気ノズル22。

【請求項6】前記翼形部34が、前記排気に渦を発散させるように内向きに延びることを特徴とする請求項5に記載のノズル。

【請求項7】前記翼形部34が、空気力学的に流線型であり、渦を発散させるように銳角の迎え角を有し、前記翼形部スパンが前記排気の局部的な境界層の厚さと実質的に等しい大きさにされていることを特徴とする請求項29に記載のノズル。

【請求項8】ファン空気16を排出するための排出口28と、

前記排出口に隣接して円周方向に間隔を置いて配設された複数の短形状翼形部34と、を備え、

前記翼形部の各々は、対向する正圧側面及び負圧側面36、38を含み、該翼形部の正圧側面及び負圧側面が、根元部40から先端部42までのスパンをもって延び、かつ、前縁44から後縁46までの翼弦をもって延び、前記負圧側面が、前記後縁に沿って渦を発散させるような形状であることを特徴とするファン排気ノズル18。

【請求項9】前記翼形部34が前記排気中に渦を発散させるように内向きに延びることを特徴とする請求項8に記載のノズル。

【請求項10】前記翼形部34が、空気力学的に流線型であり、渦を発散させるように鋭角の迎え角を有し、前記翼形部スパンが前記排気の局部的な境界層の厚さと実質的に等しい大きさにされていることを特徴とする請求項9に記載のノズル。